

## 第1回 名張市総合計画審議会議事概要

日時：平成27年3月28日（土）午後2時～午後4時

場所：名張市役所 庁議室

委員出欠状況：欠席... 富山委員

市・事務局：亀井市長、企画財政部、森岡部長、総合企画政策室 森嶋室長、山下副室長、中重

### ○市長より委嘱状の交付

### ○市長あいさつ

#### 亀井市長

この度、皆様方に名張市総合計画審議会委員をお願い致しましたところ、快くお受けいただきましたこと、まず御礼を申し上げます。

私は、県議会議員としての三期11年間は、「福祉」をテーマとしてまいりました。「福祉」というのは、広義では「幸せ」を意味します。名張を“福祉の理想郷”にしてみたいとの思いで市長にさせていただき、総合計画の愛称を「理想郷プラン」とさせていただきました。そして、このプランを推進していく上で大きな課題が2つありました。1つは「財政再建」、そしてもう1つは「市民主権のまちづくり」です。

市長に就任させていただいた当時、本市は数年後には財政破綻をきたすという状況でした。そのような中、「市政一新プログラム」と「財政健全化緊急対策」に基づき、職員定数の削減や官から民への取組など、様々な行財政改革の推進を図ってまいりまして、かろうじて大きな山を越えることができました。

しかし、大きな課題であった土地開発公社の解散や、未利用地の有効活用などにより収入が増えた半面、基準財政需要額が削減され、その結果、国からの地方交付税の切り込みがなされてきました。また、これに加えて本市は市町村合併を行わなかったため、これまでも厳しい対応をさせられてきたわけですが、当初10年間としていた合併した自治体への交付税の優遇措置を、10年を経過した後も継続されることになり、市町村合併を行わなかった自治体にとってはさらに厳しい状況となってきました。しかしながら、これをまた1つのチャンスとして、次なる改革も進めていかなければならないと思っており、今後は基準財政収入額にカウントされない財源を求めていくことも必要であると考えているところです。

そして、もう1つのテーマである「市民主権のまちづくり」につきましては、地域の皆様方や各種団体の皆様が自己決定と自己責任のもと、それぞれの自己実現を叶えてもらうという思いで、行政主体のまちづくりをやめ、市民の自発的な活動に対してサポートしていくというスタンスとさせていただきました。当初は、毎日のように他の自治体から本市に視察にみえていた状況でしたが、今はそれがスタンダードとなり、先駆的に始めた「名張モデル」が、全国のモデルともなりつつあります。

そして、その後新たに2つの大きなテーマが出てきました。「生涯現役のまちづくり」と「産み育てるにやさしいまちづくり」です。

本市は市制発足当時約3万人であった人口が、関西圏のベッドタウンとして一挙に8万人を超え

る人口となりました。そして、一挙に入居いただいた方というのはいわゆる団塊の世代の方が圧倒的に多く、今、この方々の高齢化が進む中、この方々がいつまでもお元気で活躍いただけるまちづくりを進めていくことが必要です。

「健康名張21計画」や「名張ばりばり現役プロジェクト」による健康づくり、体力づくり、健診の推進といった取組と、生涯学習や生涯スポーツを通じた生きがいくづくり、あるいは社会の担い手として、まちづくりやボランティア活動の推進などの取組を進めています。いわゆる健康寿命について、全国平均の男性71歳、女性74歳に対し、名張市民の健康寿命は、男性78歳、女性81歳と、全国平均と比べると高い値にあります。こうした取組を今後も推進し、いつまでも健康でいていただけるまちづくりを進めて行きたいと考えています。

そして、もう1つの「産み育てるにやさしいまち」につきましては、去年から「名張版ネウボラ」といって、フィンランドの子育て応援の仕組みとして、妊娠・出産・育児を切れ目なく対応できる体制を本市にも取り入れ、市民の皆さんや関係の皆様方のご協力をいただき取り組んでおります。

しかし近年は結婚されない方が増え、それにより出生率が落ちてきています。こうした中、婚活などを通じてそういう機会も作っていく必要があると考えています。また、結婚されたら住む家も必要となるわけで、現在、団体さんのご協力をいただきながら住宅政策事業も進めています。そして、保育面では「待機児童0作戦」、そしてこれを教育につなげていくということで、今後、特区を受けながら特色ある教育を一体的に取り組んでいかなければならないと思っております。

そして今、新たに国・地方共通の大きな課題として「地方創生」という大きなテーマが浮上してきました。

東京への一極集中は、ここ5年間は10万人を切っていましたが、2020年に開催予定の東京オリンピックの影響も受け、昨年度また10万人を超過しました。そして東京へ移り住んだのは15歳から29歳までの方がほとんどです。そして東京都の合計特殊出生率は1.1ですから、これがまた人口減少につながるため、何とかこの流れをくい止め、人口減少と地方の創生に取り組む必要があるわけです。本市におきましても平成27年度のうちに「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定し、この地方創生の取組を進めていきます。

皆様方にご審議いただくこの総合計画は、本市の羅針盤であり今後のまちづくりの基礎となるものです。どうか皆様方にはこうした様々な本市の課題を念頭に入れていただき、慎重審議をいただければと思います。何卒よろしく願いいたします。

## ○委員紹介

- ・事務局より照会

## ○第1回審議会

### 1. 会長及び副会長の選任

- ・会長 辻 陽
- ・副会長 富山 修

## 2. 基本構想の諮問

- ・市長より諮問

## 3. 会長・副会長あいさつ

- ・会長あいさつ

地方分権が進む中、今後ますます自治体間競争が強まっていくのではないかと、見通しを私自身持っております。

地方分権をするということは、国の方針を決めるけれども、そのやり方であるとか、あるいは先ほど市長のお話もありました「地方創生」をどのようにしていくかは、まさにその自治体で決めてくださいということです。そのようなことが、より強調される、そんな時代にもう入っているようです。

自治体における自己決定が強調されるということは、実は逆に言いますと、自治体自体がより良いまちになっていかないと、そのまちはどんどん沈んでいってしまう。かつてであれば、国があまり頑張っていない自治体もしっかりしっかり底上げをしようというところであったのが、近年は地方分権によって「自治体さん、頑張ってくださいよ」となっています。

東京にどんどん人口が集中しているという話も市長さんの方からもございましたけれども、地方分権の潮流が止まらない、切れないことを考えますと、この総合計画というものをしっかりとここで皆様方にご議論いただいて、そして名張を選んでもらえるようなまちづくりをしていかなければいけないと個人的には思っており、皆様にお力添えをいただきながらやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

## 4. 審議会の進め方について

(事務局にて説明)

- ・資料1に基づき、今後の審議会開催予定について説明。
- ・資料2に基づき、これまでの取組計画について説明。
- ・資料3に基づき、総合計画策定スケジュールについて説明。

## 5. 基本構想（素案）について

(事務局にて説明)

- ・資料4に基づき、基本構想の素案について説明。

### 【議事】

(委員)

委員長が選んでいただけるまちと言われましたが、これに関して委員長の意向を聞かせていただきたい。

2点目は、基本構想で特に商工業の振興がちょっと弱いですね。これに関してどう考えていくか、またこれに関連して、共働のまちづくりという形で地域ビジョンの計画をまとめられ、地域の組織との連携というのはあるわけですが、各団体との連携というのも含めて地域活性していくという

方向性も必要かと思いますが。

3点目は6ページに住みよいまちと回答してるのは85%ということですが、実際住みよい方というのは25.7%なんですね。ずっと住み続けていきたい人は51.8%。根本をもうちょっと考えていかなければならないのではないかというふうに思います。

(会長)

(一点目について)「住民に選んでいただけるまち」にするにはどうすれば良いかということです。

(二点目のご指摘は) 商工業の振興についてももう少しこの基本構想の中で触れていった方が良いのではないかと。協働のまちづくり、地域組織との連携については実際進んできているが、各団体との連携をもう少しこの基本構想の中でも考えていけば良いのではというご提案だったと思います。

住みよいというふうに考えてらっしゃる住民は8割以上だけれども、しかし実はずっと住み続けたいと考えておられる方はそれほど多くもない。

その点も含めて、どのようなまちづくりにしていかないといけないか深くまで考えてやっていかないといけないという3点のご質問であったかと理解させていただきました。

(委員)

住みよいという方が25.7%なんです。ずっと住み続けたいと思っている方は多いけれど、住み良いという方がその割に少ない。利便性の問題があるのかなと思います。

(会長)

まず、1点目の「住民に選んでいただけるまち」にするにはどうすればいいか、私の見解ですが、実は正に今回こちら事務局の方にまとめていただいた基本構想にもあるように、あるいは先ほど市長のおっしゃったように、「若い人が選ぶ」ということがまちの活性化にはすごく大事ななんでしょう。生産年齢人口が減っていくということは、それだけ市税収入というものも減っていきますし、名張市が新たにこういうことをやりたいと思っても、なかなか使えるお金がないということになってしまうと思います。

どうすれば高齢化が急速に進んでいく名張市を若い方に選んでいただけるか、ということが非常に大事ではないかと思っています。ただ、じゃあその方法が思い付くかというとなかなかこれが難しい問題で、例えば私も大学でゼミを受け持っていて地域活性化のテーマに本を紹介したりしますが、私が聞く限り特効薬はなかなかないですね。

それこそこの審議会は、その為の知恵を出す場と私自身は認識をしておりますし、これからご審議いただければというふうに思っております。それから後もう1つですね、各団体との連携っていうものをもう少し強化、認識をした方が良いんじゃないかということで、この点について委員の皆様方、何かご意見などありますでしょうか。あるいは全体的な意見でも結構です、自由にご発言いただければと思います。

(委員)

計画の大前提は安定した自治財政がベースになると考えます。20ページで、「自主財源の確保や歳入に見合った予算規模の適正化など財政基盤の強化を図り、将来にわたって持続可能な財政運営に努めます。」とあるが、経営に例えたら長期プランには必ず事業計画の中に「財政」というものが書かれるものですが、どんなイメージを抱いているか教えていただければ幸いです。

(会長)

持続可能な財政運営に関して、事務局としてどういったイメージをお持ちですか。

(事務局)

今、名張市の財政は非常に厳しい状況にあります。国からの交付税が減少し、また、名張市の人口は減少傾向にあり、生産増人口も減少する、それによって名張市の主財源である市税も減少してきているという傾向があります。

そうした中、無駄を省き事業を選択し、また優先順位をつけて進めていく、こうしたことをさらに徹底し、市の経営を進めていくという考えで書かせていただきました。

また、ご意見いただきました商工業の振興については、今後のまちづくりの3つの重点戦略の第1に掲げております「名張の元気創造プロジェクト」において、新たな産業の創出、また地域経済の活性化と、真に取り組んでいかなければならない取組に位置付けております。具体的にどういったことを行うかについては、基本計画の中で明確に示していきます。

また、市民意識調査のアンケート結果の分析につきまして、当然、「住み続けたい」とか「住みよい」という意見がある反面、働く場・通勤・通学・買い物、また医療環境などに不便を感じるといった意見も多くあります。

すべてに取り組んでいくわけにはいかない中、まず働く場所の確保。こういったところを、この重点戦略の中でも位置付け、より住みよいまちを目指した施策展開を図りたいと考えています。

(委員)

今まで特に商業・工業の振興というのは、この10年間あんまり重点にされてなかったように思いますので、今後育てていただきたいと考えます。今、特にその全体構想の中で地域づくりとの連携はあるけども、各団体との連携というのはちょっと上がっておりませんので、その辺をどう考えるかというところがございます。

(会長)

これはあくまでも素案ですから、各団体との連携も、もう少し前面に出してくるということは充分ありえると思いますし、委員の方々のご議論・ご指摘・ご提案をいただければと思います。

(事務局)

市民主権のまちづくりを進める中で、地域づくりだけがクローズアップされているというご指摘をいただきました。市民・関係団体・地域づくり組織などあらゆる主体を市民主権のまちづくりと考えています。計画の詳細の中で関係団体との連携についても示していけるよう検討します。

(委員)

議事の進め方について質問ですが、今日は全体を通して話をするということで良いですか。

(会長)

総論といいますか、皆さんの名張についての現状認識、理解を共にしたいと思います。もちろんその中で全体にかかる色々なご意見等もあると思いますが、皆さんがどういうふうなところに関心をお持ちになって、この場に臨んでいらっしゃるかっていうことも含めて、今日はご議論できればと考えております。

(委員)

格差の話に関連して、各団体との連携の話についてです。団体はあれですけど各個人というのが

市民の1番最初に書かれているのに、「市内で活動する団体と言います」と書かれていますが、これは「個人と団体」という風を書くべきだと思います。

もう1つ、地域づくりがうまくいっている印象をお持ちの委員のご意見に対して、私はあまりうまくいっている印象はなく、むしろ、どのように運営していくかということについて言及された方がいいのではと思っております。理念は最高ですが、悪いところを出していないのかなと思います。

次に言語表現について、市民と共有するなら行政用語を使わず、もっと平たい言葉にした方がいいと思います。「大綱」という言葉は「大事なこと」と書くとか、5ページ「協働のまちづくりの推進」の5行目からの表現がワンセンテンスのため、もっと分かりやすい文章にすべきと思います。

次に、社会潮流についてです。数値や地形が違うだけで全国的な状況を書かれているだけではないかと思えます。さらに地域の突出した機能という表現をされていますが、名張の突出した機能・魅力について意思を示さないと、今僕はそういう意味では名張は「美しい輝く小」と、輝いていく小さいものと思っております、「理想郷」もいいが「美しい」と言う言葉を入れてほしいと思っております。

そして自然は積極的に関与しないと残らない。名張の川にダムができたこと、街中の景色に田んぼがなくなったこと、団地の空地の荒廃などを考えると、自然との共生には自然復元が必要と思う。

それから表現について、抽象的な表現ばかりだが、もう少し具体的に書いてもよいのではないかと、例えば、若い人を呼び込むとして「移住センターの設立」なんてことも具体的に書いたらいいじゃないかと思えます。具体と抽象が併存しても良いと思えます。

#### (会長)

団体との連携だけではなく各個人との連携をもう少し考えていった方がよいのではないかと、それから、まちづくり・地域づくりに関して、決して良いことだけではないのではないかと、その点については反論等もあるかと思っておりますので、もしあればご議論いただきたいと思えます。

それから基本構想の文章、あるいはその言葉の使い方に関するご指摘、つまりは、大綱という言葉ではなく、もう少し平易な言葉を、あるいは1文をもう少し短くした方がよいのではとのご意見がありました。また、総合計画には「美しい」という言葉を、自然というものをもう少し正面からとらえた方がよいのではないかとのご指摘や、具体的内容をこの基本計画の中で考えていけばというご意見がありました。

言葉の表現に関しては、基本的に行政は継続性も大事であり、現行の総合計画と連続性を持って新しい総合計画を作る際には、ある程度言葉を一致させることも必要かと思っております。

それから、具体的なものと抽象的なものを基本構想の中に入れていけないかとの意見に関して、ご議論いただくうえで具体の施策を認識いただくことはすごく大事だと思いますし、ご指摘いただくことも大事だと思いますが、一方で今回の基本構想については構想レベルでまとめていった方が、むしろ住民の方・名張市民の方にもとらえやすいかもしれません。

他の委員の方がどうお考えになるか、またご議論いただければとは思えます。

それともう1点、社会の潮流に関するご指摘について、1つは老年人口の割合が名張市の場合は全国よりも高い推計値になっています。社会的な潮流を先回っていると言った方がいいかな。それから、人口の将来展望で、10年後77,000人を目安とお書きですが、国立社会保障・人口問題研究所の推定人口は72,333ですね。意思としてはなるべく減っていく人口を止めたいとい

うふうな部分があるのかなと思いました。

それこそ委員の皆様方のご意見等もあるかと思いますが、もし事務局の方から何かあればご発言ください。

**(事務局)**

この総合計画は、行政と市民の総合計画ですので、どなたが見ても分かりやすい様、工夫できるところは改善させていただきたいと思います。

それと、もう少し具体の取組をとの意見をいただきましたが、そこは基本計画のところで示していこうと思っています。

それと、人口について、13ページの人口の将来展望ですが2025年国立社会保障問題研究所(以下社人研)では72,000人、名張市の目指す将来人口は77,000人。この違いだけ説明させていただきますと、社人研は基本的には名張市の人口減少が現状のまま推移していくとして仮定して推計を出しています。市としては、少しでも社会増減を少なくしていく。この総合計画で定める3つの戦略を重点的に進めることによって77,000人を目指していこうという考えです。

また、名張市の特徴である、住宅開発に伴う団塊の世代が一気に転入されたという点を社会潮流に入れるかは、検討させていただきたいと思っております。

**(委員)**

計画策定の趣旨で安全・安心と書かれているのですが、三重県民力ビジョンで触れられていたかと思いましたが、大災害に対する広域の助け合い・共助が書かれてないかと思えます。

それから、先ほど委員がおっしゃられました持続可能な市政経営について。市長もおっしゃられたように地方交付税が元に戻らない中、税の値上げをすることで持続可能な市政経営ができるのかという検証を中長期的にされているのか。それから財政運営、無駄な事業など精査していただいて、官から民へ、民ができるべきところは民間でといったお考えのもと、さらに1つ1つ事業の見直し等々していったらというふうに思います。

**(会長)**

いわゆる大災害が生じたときの共助・助け合いについてももう少し打ち出してはどうかといったご意見が一点目だったかと思えます。2点目はまず持続可能な市政経営中長期的な検証がなされているかといったご意見で、3点目は更なる事業の精査というものが必要ではないかというふうなご意見であったかと思えますが、私からの事務局への提案として、次回の審議会に向け名張市の財政についてももう少しイメージを共有できるような資料をご用意いただきたいと思います。

先ほど市長は、(財政再建について)山を越えたが厳しいとそういうお話をされておりましたが、名張の今後の財政の見通しとか、厳しい状況に立たされている原因など分かりやすくまとめた資料をご提供いただけると今後の総合計画の審議でもイメージを共有しやすいかと思えます。

**(事務局)**

次回、準備をさせていただきます。

**(委員)**

商工業の振興に対してですけれども、名張市全体の発展と関連していると思うんですね。商工業の発展、個々に努力するのではなく行政がどういうふうバックアップしていくかということ、もしくは名張市としてその商工業を活かしてどう全国に発信していくかが重要かと思えます。

財政のことは難しい話ですので省きますけれども、総合計画は10年先、ひいては30年先の未来の名張市を見据えた構想ですから、いかに発展させるか、守りでなく攻めの姿勢と言いますか、市民・商工業・行政が一緒になって発展・発信していく。そして人や企業を呼び込み、名張市を知ってもらう。そして雇用も創出する、それから、教育にも力を入れることで若い世代が住みよいと思いを選んでいただき、さらに活力あるまちづくりをずっとしていくというような観点から、前向きな基本構想を練っていく。持続可能な市政経営を読んで不安になりましたけれども、とにかく一体となってまちを盛り立てていくという考え方でいけば良いと感じました。

**(会長)**

もう少し前向きな姿勢で基本構想を考えていくべきではないかという話だったかと思います。もちろん財政の意識を作る必要はあるけれども、例えば商工業の発展に向けて市としてどのようなサポートが良いかを考える、あるいはそれは商工業だけではなくて教育にしてもあるいは他の分野にしても、必要なところに市として重点的に取り組むといったプラスのイメージと言いますか、攻めのイメージ、これを持って基本構想というのを考えていくべきではないかというご意見だったと受け止めています。

あともう1点。シティプロモーションですね。名張市を全国に売り出していく。その為にはどうすればいいのか、その点も含めて考えていく必要があるのではないかというご意見であったかと思います。

**(委員)**

社会潮流の中で、広義の意味の産業革命と言うか、産業構造が大きく様変わりするというところに触れてもいいのではないのでしょうか。例えば車でもご存知のように石油から電気・水素という形で大きく変わってきましたね。家電製品でもアナログからデジタル・ウルトラネットワークという形で変わってきますね。だから今言われているように、今まで一次産業・二次産業・三次産業で終わっていたものが六次産業に代表されるように産業構造がある面では今まで以上に大きく様変わりするということですね。名張の自然が生かされた色々な産業がこれから大きく発展するのではないかと思うので、社会潮流の中にもう少し入れてはどうか、狭義の意味の産業じゃなく大きな視点から見た方がより良いのではと思います。

**(会長)**

商工業だけでなく広い意味での産業というものを考えていく中で、今後の名張をどうしていくのか、どうしていきたいのかといったことを基本構想の中に盛り込んでいく必要はあるかなとも思いますが、ご意見・ご議論のある方ご発言お願いいたします。

**(委員)**

教育の部分でちょっと弱いイメージを持ちました。序論を見ても思いましたが、17ページの最初の部分に「豊かな心と体を育み暮らせるまち」があるんですけども、ここに学校教育というのが少し書いてあるのですが、「産み育てるにやさしいまち」という割には子どもに対することがあまり書かれてない。教育についてはさらっとしか述べられていないというふうに感じました。

名張は「子育て」に重点を置いているわけで、その辺をもう少し強く出してもらえれば、「ただ都会であるだけじゃ子育てに向いてない、名張なら自然もあって都会にも通える、子育てするなら名張の方が良いよ」って、名張が1番良いんじゃないかって思わせるようなプランを作って欲しい

思います。今いる子どもたちを市外に出さないんじゃないかと、「名張で生まれ育った子どもたちは、世界に飛び立ってください」というような、もっと広く前向きなイメージで。

あと、他の委員さんと同じ意見で、文章が読みづらいと思います。例えば「本市」と書くより「名張市」とはっきり書く、名張市をPRする気持ち、この「新・理想郷プラン」を売り込むようなつもりで営業するような気持ちで強気にいってほしいと思いました。

#### (会長)

教育に関する部分、もう少し序論の方から前面に出すべきではという意見、そして子育ての面でのシティプロモーション的な部分というのを、序論の方から出していくべきではという意見であったかと思います。こういったことも含めてこれからご議論いただくかと思っております。

で、基本構想に使う言葉をどうするかということも今後の課題となるのですが、本日私がお話を伺った中で、だいたい次のような話が出たかと思っております。順不同ですが、

- 地域、地域づくりとの連携は謳われているけれど、諸団体との連携ももう少し打ち出しても良いのではないか、さらには個人との連携、市民1人1人との連携というか、連携の在り方についてももう少し検討する必要があるのではという意見。
- 長期的な財政運営、名張市としての財政運営をどうしていくのか。これについてももう少しイメージを共有し深く知る必要があるのではないかという意見。
- 財政が厳しい中においても名張を売り込むことが大事であり、商工業の振興、あるいは教育あるいは他の部分についても積極的な意味で捉え直す必要がある。それに対して名張の行政がどうサポートしていくのかということを考えていく必要があるのではないかという意見。
- 今後の名張を考える上でのキーとなるのは、その子育て世代である。「子育てするなら名張」をもっともっと前面に押し出しても良いのではないか。若い人を呼び込むような教育、福祉をもう少し前面に打ち出す必要がある。
- 自然についてももう少し真正面から捉える必要がある。
- 大災害時に、名張としてどのような対応をするのかという認識、イメージをもう少し構想の中に盛り込んでいくべきではないかという意見。

これらの意見を認識したうえで、この基本構想の議論の中で活かしていければ良いかと思っております。そして、文章表現。これについても委員の皆様方ですね、ご意見を踏まえながら、適宜修正をすべきところがあれば、それは修正をしていくという形でやっていければ良いかと思っておりますが、いかがでしょうか。だいたいのところを非常に雑駁ですが、おまとめさせていただきます。

#### (委員)

自然というのは、自然保全だけではなくて、農地・林地含めてのことです。それから保全だけではなくて復元も含めてということです。

## 6. その他

#### (会長)

次回の審議会5月1日金曜日の午後2時からの開催となります。

以上をもちまして、第1回名張市総合計画審議会を終了いたします。